

考古学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
考古学概論	日本考古学の諸問題	2	鹿又 喜隆	3	月曜2限
考古学概論	ユーラシア考古学概論	2	松本 圭太	4	月曜3限
考古学基礎講読	考古学資料読解	2	鹿又 喜隆	3	金曜2限
考古学基礎実習	考古学資料の観察と記録	2	鹿又 喜隆	4	金曜1限 金曜2限
考古学各論	人類の進化と考古学	2	佐野 勝宏	5	月曜2限
考古学各論	東北大学収蔵資料の考古学	2	藤澤 敦	5	火曜3限
考古学各論	考古学の方法と実践	2	佐野 勝宏	6	月曜2限
考古学各論	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	藤澤 敦	6	火曜3限
考古学各論	先史文化の考古学	2	菅野 智則	6	木曜4限
考古学講読	ユーラシア考古学入門	2	松本 圭太	5	金曜2限
考古学演習	考古学研究史	2	鹿又 喜隆	5	金曜4限
考古学演習	考古学の方法と理論	2	鹿又 喜隆	6	金曜4限
考古学実習	考古学の調査と資料分析 (1)	2	鹿又 喜隆	5	水曜3限 水曜4限
考古学実習	考古学の調査と資料分析 (2)	2	鹿又 喜隆	6	水曜3限 水曜4限

科目名：考古学概論

曜日・講時：月曜 2 限

semester：3 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB31201, 科目ナンバリング：LHM-HIS202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本考古学の諸問題

2・授業の目的と概要：この講義では、日本の考古学研究史を通して、日本考古学の独自性と特徴を研究史を通して学びます。また、近年の考古学の課題や問題点を明示し、その解決方法に関する具体的な事例を解説します。特に、先史時代を主な対象として、自然環境や社会環境と、人類行動の関係を把握します。

3. 学習の到達目標：(1) 考古学研究の歴史を理解する。(2) 現在の考古学研究の方法を理解する。(3) 人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきていることを理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は、講義中心の授業です。毎回、パワーポイントのプレゼンテーションにより講義を進めます。内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 考古学の理論と方法 (1)
3. 抽象性の理解
4. 考古学の理論と方法 (2)
5. 寒冷適応
6. 環境変動の基礎的理解
7. 比較文化研究
8. 温暖適応
9. 災害と遺跡
10. 石刃技法をめぐる諸問題
11. 研究倫理と前期旧石器時代遺跡捏造事件
12. ヒトの姿を追って
13. 完新世の温暖化適応
14. 農耕の成立と展開
15. 植物利用の多様化

5. 成績評価方法：筆記試験 [70%]・出席 [30%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、プリントを配布する。参考文献を講義中に随時提示する。

7. 授業時間外学習：講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
実務・実践的授業

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:00

科目名：考古学概論

曜日・講時：月曜 3限

Semester：4 単位数：2.00 単位

担当教員：松本 圭太

コード：LB41301, 科目ナンバリング：LHM-HIS202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ユーラシア考古学概論

2・授業の目的と概要: 教員の専門であるユーラシア草原地帯の考古学を研究していく上で必要な基礎知識の提供を目的とする。考古学には資料や過去の時空間を整理する独自の方法、拠ってきたパラダイムがある。それらは、あらゆる地域を対象とした研究の基盤であり、それらを共有することで、いかなる地域・時期を専門とする研究者とも議論が可能になる。講義の後半では教員の専門とするユーラシア草原地帯の青銅器について、前半に学んだ方法論を確認しながら、理解を深めてもらう。ユーラシア草原地帯では様々な国籍のチームが、考古学、理化学、人類学など多様な観点から歴史復元を行うべく活躍している。その中で考古学がどのような部分で貢献できるか考えてほしい。講義はパワーポイントに基づいて進める。

3. 学習の到達目標：(1) 考古学研究を進める上で必要な基礎知識を学ぶ。(2) 考古学独特の手法が歴史復元にどのように役立つかを考える。(3) 古代ユーラシア東部の地域構造と金属冶金の開始について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 本講義のガイダンスと全講義の説明
2. 考古学の歴史① (近代考古学の開始と日本への導入)
3. 考古学の歴史② (大陸の調査)
4. 考古学における理論① (考古学における論文構成)
5. 資料論
6. 層位論
7. 型式論① (分類)
8. 型式論② (編年)
9. 分布論① (様式)
10. 分布論② (分布論と資料論)
11. 考古学における理論② (考古学におけるパラダイム)
12. 東部ユーラシアにおける二項対立構造
13. 華北平原における青銅器の開始
14. ユーラシア草原地帯東部における青銅器の開始①
15. ユーラシア草原地帯東部における青銅器の開始②

5. 成績評価方法：(○) 筆記試験 [50%]・(○) 出席 [50%]

6. 教科書および参考書：プリント (電子版の場合あり) を配布する。

7. 授業時間外学習：講義中の方法が自身の研究のどの部分に活用できるか考える。講義の対象となった時期や社会的様相について、自身の研究に近い地域と対比する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：

科目名：考古学基礎講読

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB35204, 科目ナンバリング：LHM-HIS207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：考古学資料読解

2・授業の目的と概要：本講義の目的は、考古学研究の目的と手法、概念を学び、考古学について自分なりの問題意識・視点を獲得することです。考古学研究は、対象とする時代・地域あるいは研究者によって、理論的・方法的に多様です。そして、研究成果は一次的に報告書、そして研究を通じた論文として発表されますが、報告書や論文にはそれぞれの形式が存在します。形式に沿って構造化された文章に親しむことは、調査・研究資料から正しく情報を引き出すために必要です。具体的な資料の読解を通して、考古学と論文の構造についての知識を獲得しつつ、考古学研究の多様性を認識します。こうした知識の獲得と同時に、自分なりの問題意識・視点を持ち、議論できるようになることをめざします。そのため、講義時に内容を報告するとともに、全員で意見交換を行います。

3. 学習の到達目標：① 考古学の概念や考古学研究の目的について理解し、自分の研究に取り組める知識を深める

② 報告書や学術論文の構造について理解する

③ 考古学研究について自分なりの視点を持ち、議論できるようにする

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では対面で実施します。

スケジュールは以下の通りです。

1. ガイダンス

2. 英文読解と議論（考古学概念の理解）

3. 英文読解と議論（考古学概念の理解）

4. 英文読解と議論（考古学概念の理解）

5. 英文読解と議論（考古学概念の理解）

6. 英文読解と議論（考古学概念の理解）

7. 考古調査の流れ

8. 報告書読解と議論

9. 報告書読解と議論

10. 報告書読解と議論

11. 論文（和文・英文）読解と議論

12. 論文（和文・英文）読解と議論

13. 論文（和文・英文）読解と議論

14. 論文（和文・英文）読解と議論

15. 最終まとめ

5. 成績評価方法：発表（40%）・出席および受講態度（30%）・レポート（30%）

6. 教科書および参考書：授業時に文献を選択あるいは指示する。適宜資料を配布する。

（例：《Archaeology》などの考古学概論書、発掘調査報告書、英文・和文の関連論文）

7. 授業時間外学習：毎回、各自が課題文献を十分に予習済みであることを前提に進める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

実務・実践的授業

9. その他：

科目名：考古学基礎実習

曜日・講時：金曜 1 限、金曜 2 限

semester：4 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LB45102, 科目ナンバリング：LHM-HIS208J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：考古学資料の観察と記録

2・授業の目的と概要：考古学研究のなかで、出土した遺物を正確に資料化していく作業は、きわめて重要です。今後の研究の基礎として、そのための基本的な方法、技術、および各種遺物の観察の仕方を学びます。土器・石器などの実測図作製の実習を通して、実証的な研究態度を身につけ、資料に対する観察眼を養い、客観的な資料提示の方法を学びます。実習資料は、実際の出土品を扱います。

3. 学習の到達目標：(1) 考古学における出土遺物の資料化の意義を理解できるようになる。(2) 特に実測図作成の基本を学び、各種遺物の実測図を作成できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

講義のスケジュールは以下の通りです。

1. 考古学における資料化
2. 剥片の実測図作成
3. ツールの実測図作成
4. 石核の実測図作成①
5. 石核の実測図作成②
6. 石核の実測図作成③
7. 磨製石器の実測図作成①
8. 磨製石器の実測図作成②
9. 縄文土器の実測図作成①
10. 縄文土器の実測図作成②
11. 縄文土器の実測図作成③
12. 縄文土器の実測図作成④
13. 土師器・須恵器の実測図作成①
14. 土師器・須恵器の実測図作成②
15. 拓本の作成と断面実測

5. 成績評価方法：出席 [30%]・提出課題と受講態度 [70%]

6. 教科書および参考書：実測図作成に必要な用具の購入について、別途指示します。

7. 授業時間外学習：課題が講義時間内に終わらない場合には宿題になります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

実務・実践的授業

9. その他：

課題の完成にあたっては、随時、教員に確認をもらうこと。特に出席と毎時間の受講態度を重視します。毎回かなりの課題（実習整理室での宿題）がありますので、受講者全員に積極的な取り組みを期待します。

科目名：考古学各論

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：佐野 勝宏

コード：LB51202, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：人類の進化と考古学

2・授業の目的と概要：この授業では、考古文化の発達と人類進化の関係について学ぶ。人類の各進化段階で起きた、認知、行動、文化、社会の発達について学び、人類の生物学的な進化と文化的発達の意味を理解する。

3. 学習の到達目標：人類の進化史と考古文化の発達史の概要を把握し、考古文化の発達に関する進化論的な意義についての理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 人類の進化史
3. 道具の出現と発達
- 4-5. 火の利用の起源
6. 原人・旧人の出現と拡散
7. ネアンデルタール人
- 8-9. DNA 研究からみた進化史
10. 旧人・新人の交替劇
11. 狩猟技術の発達史
- 12-13. 旧石器時代の芸術
14. 新石器文化の拡散と受容
15. 家畜化の歴史

5. 成績評価方法：レポート [70%]・出席 [30%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

7. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：考古学各論

曜日・講時：火曜 3 限

Semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：藤澤 敦

コード：LB52301, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：東北大学収蔵の考古学資料

2・授業の目的と概要：東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約 20 万件あり、これらの資料はおよそ 90 年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。

本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、東北大学において進められてきた弥生文化および古墳文化研究の意義について検討する。

3. 学習の到達目標：(1) 東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。

(2) 東北大学の考古学資料の学術的意義を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 東北大学での考古学研究の歴史
3. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (1)
4. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (2)
5. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)
6. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)
7. 東北大学における弥生文化研究 (1)
8. 東北大学における弥生文化研究 (2)
9. 東北大学における弥生文化研究 (3)
10. 東北大学における弥生文化研究 (4)
11. 東北大学における古墳文化研究 (1)
12. 東北大学における古墳文化研究 (2)
13. 東北大学における古墳文化研究 (3)
14. 東北大学における古墳文化研究 (4)
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：考古学各論

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：佐野 勝宏

コード：LB61202, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：考古学の方法と実践

2・授業の目的と概要：考古学の研究は、様々な分析方法を用いて行われる。この授業では、その分析方法と具体的な実践の仕方について学ぶ。いくつかの分析方法は、授業中に受講者が実際に取り組み実践する。

3. 学習の到達目標：考古学で行われる様々な分析方法について学び、各分析方法がどのように考古学研究に活かされ実践されているのか理解する。また、いくつかの分析方法を実践することで、そのやり方を覚える。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2-6. 実験考古学の方法と実践

7-10. 3D 考古学の方法と実践

11-14. GIS 考古学の方法と実践

15. 遺跡形成論

5. 成績評価方法：レポート [30%]・課題 [40%]・出席 [30%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

7. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：考古学各論

曜日・講時：火曜 3 限

Semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：藤澤 敦

コード：LB62301, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究

2・授業の目的と概要：日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。

本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。

3. 学習の到達目標：(1) 日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。

(2) 日本の文化財保護行政と考古学研究の関係について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、屋外での史跡見学を行います。

1. 授業概要と進め方の解説および導入
2. 日本の考古学をめぐる状況
3. 文化財保護法の基本理念と構成
4. 教育委員会制度
5. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (1)
6. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (2)
7. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (3)
8. 国指定史跡制度
9. 国史跡の保存管理と整備活用
10. 史跡仙台城跡の見学
11. これからの文化財保護行政 (1)
12. これからの文化財保護行政 (2)
13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (1)
14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

科目名：考古学各論

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：菅野 智則

コード：LB64401, 科目ナンバリング：LHM-HIS303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：先史文化の考古学

2・授業の目的と概要：本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、堅穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、本授業では北米北西海岸部における先史文化に関するこれまでの研究を一事例とし、縄文文化の相対的な位置を理解することにより、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。

3. 学習の到達目標：(1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。(3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 回目：本授業の授業の目的と到達目標について説明する。そのほか、論文の読み方等について解説する。

2・3 回目：縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法等の基礎的な研究方法について概観する。

4～7 回目：縄文時代研究史について解説する。第 2 次世界大戦前後における縄文文化研究、1980 年代からの新発見による縄文時代研究の進展、近年の新たな展開の 3 段階に分けて、それぞれの時代の研究内容を解説し、研究の視点と方法の変化について理解する。

8 回目：「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なものか、研究史に関する講義のまとめとして説明する。

9～14 回目：縄文時代を成立期（草創期・早期）・展開期（前期・中期）・転換期（後期・晩期）の 3 期に区分して、それぞれの時期に関して 2 回ずつ、各時期の土器型式や各種遺物等の物質文化、あるいは生業活動を含めた居住形態に関する研究について説明する。

15 回目：縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚や湿地帯遺跡の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。その上で、講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。

5. 成績評価方法：(O) レポート [60%]・ (O) 出席 [40%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。

7. 授業時間外学習：講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）

メールアドレス tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp

科目名：考古学講読

曜日・講時：金曜 2 限

semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：松本 圭太

コード：LB55206, 科目ナンバリング：LHM-HIS308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ユーラシア考古学入門

2・授業の目的と概要： 概説的英語文献を通読することによって、ユーラシア大陸における広い地域を対象とした考古学に関する一般的知識や歴史モデルの立て方を学ぶ。近年、世界各地の歴史的関連が注目され、東アジアやユーラシアという範囲を対象とした研究が盛んである。陸続と発見される膨大な資料や、関連分野からの多様な分析手法など、新しい研究動向を押さえておくことは重要であるが、そうした中でも一貫して解明すべき課題は何であるのかに注目しながら、本講読を進めたい。

3. 学習の到達目標：(1) 考古学に関する英語文献を理解・翻訳できる。(2) ユーラシア考古学の基礎的な用語や問題を理解できる。(3) 自らの専門あるいは関心のある分野(地域・時代)における社会像や課題と、本文の内容を対比できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

講義スケジュールは、以下を予定しているが、参加人数などを考慮し、他の課題を含める場合もある。

1 ガイダンス&イントロダクション：講義の進め方・成績評価など

2~15 Rawson, J. 2023 Life and Afterlife in Ancient China. Allen Lane の講読

5. 成績評価方法：出席・授業参加(担当箇所の訳出含む)：50%、試験：50%

6. 教科書および参考書：講読文献：Rawson, J. 2023 Life and Afterlife in Ancient China. Allen Lane
関連する論文や著書は授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：割り当てられた箇所の翻訳を完成させて授業に参加する。地名や人名を含め馴染まない単語が出てくるが、できるだけ調べるようにする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：考古学演習

曜日・講時：金曜 4 限

semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LB55405, **科目ナンバリング：**LHM-HIS309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：考古学研究史

2・授業の目的と概要：日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、今後の展望を探る。旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化、城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学その他、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行う。詳細な文献目録の作製、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深める。

3. 学習の到達目標：(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解できるようになる。(2) 各時代、各地域の考古学における研究内容の広がりを理解し、現状を把握できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面形式で実施します。

スケジュールは以下の通りです。

1. ガイダンスと研究発表の説明。
2. 学生による研究発表①
3. 学生による研究発表②
4. 学生による研究発表③
5. 学生による研究発表④
6. 学生による研究発表⑤
7. 学生による研究発表⑥
8. 学生による研究発表⑦
9. 学生による研究発表⑧
10. 学生による研究発表⑨
11. 学生による研究発表⑩
12. 学生による研究発表⑪
13. 学生による研究発表⑫
14. 学生による研究発表⑬
15. 学生による研究発表⑭

5. 成績評価方法：レポート [30%]・出席 [30%]・発表と討論 [40%]

6. 教科書および参考書：教室にて指示、プリントを配布。

7. 授業時間外学習：発表資料は時間外に各自が作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

実務・実践的授業

9. その他：

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学演習

曜日・講時：金曜 4 限

semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LB65407, **科目ナンバリング：**LHM-HIS309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：考古学の方法と理論

2・授業の目的と概要：考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

3. 学習の到達目標：(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面形式で実施します。

スケジュールは以下の通りです。

1. ガイダンスと研究発表の説明。
2. 学生による研究発表①
3. 学生による研究発表②
4. 学生による研究発表③
5. 学生による研究発表④
6. 学生による研究発表⑤
7. 学生による研究発表⑥
8. 学生による研究発表⑦
9. 学生による研究発表⑧
10. 学生による研究発表⑨
11. 学生による研究発表⑩
12. 学生による研究発表⑪
13. 学生による研究発表⑫
14. 学生による研究発表⑬
15. 学生による研究発表⑭

5. 成績評価方法：レポート [30%]・出席 [30%]・発表と討論 [40%]

6. 教科書および参考書：教室にて指示、プリントを配布。

7. 授業時間外学習：発表資料は時間外に各自が作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
実務・実践的授業

9. その他：

考古学演習を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学実習

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LB53306, 科目ナンバリング：LHM-HIS310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：考古学の調査と資料分析 (1)

2・授業の目的と概要：考古学研究の基礎として、遺跡・遺物の資料化と資料操作の標準的な手順と方法を学ぶ。今年度は、土器・石器の整理、属性分析を学ぶ。通年で、出土品の処理と整理、正確な実測図の作製、コンピュータを使用した資料分析の基本などの実習を行い、基礎的な方法を学ぶ。考古学標本室の収蔵品の資料化とデータベースの実際を経験する。大学院の考古学研究実習と連動して、課題に取り組む。発掘調査報告書の作成のための方法を具体的に学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

3. 学習の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目(考古学実習)は、対面講義です。

授業計画

第1回：出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)①

第2回：出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)②

第3回：発掘調査実習①

第4回：発掘調査実習②

第5回：出土遺物の属性入力(観察と計測、入力と統計操作)③

第6回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

第7回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

第8回：遺物の実測と製図①

第9回：遺物の実測と製図②

第10回：遺物の実測と製図③

第11回：遺物の実測と製図④

第12回：遺物の実測と製図⑤

第13回：測定の基礎と機器の操作①

第14回：測定の基礎と機器の操作②

第15回：測定の基礎と機器の操作③

5. 成績評価方法：レポート [30%]・出席 [40%]・受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み [30%]

6. 教科書および参考書：教室にて指示。

7. 授業時間外学習：夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

実務・実践的授業

9. その他：

考古学実習を通年で連続履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：考古学実習

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LB63308, 科目ナンバリング：LHM-HIS310J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：考古学の調査と資料分析 (2)

2・授業の目的と概要：5セメスターに引き続き、実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり

3. 学習の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目（考古学実習）は、対面講義です。

授業計画

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。
2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。
3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。
4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。
5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。
6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。
7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。
8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。
9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。
10. 写真撮影 (1)。
11. 写真撮影 (2)。
12. 写真撮影 (3)。
13. 保存処理に関する研修。
14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。
15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。

5. 成績評価方法：レポート [30%]・出席 [40%]・受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み [30%]

6. 教科書および参考書：教室にて指示。

7. 授業時間外学習：夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

実務・実践的授業

9. その他：

考古学実習を通年で連続履修することが望ましい。15 回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。